

没後10年
エッセイから読み取る
素顔の城山三郎



作家の城山三郎は、昭和2年名古屋市中区（現在の錦3丁目あたり）に商家の長男として生まれました。昭和20年、自ら海軍特別幹部練習生に志願入隊するも3ヶ月後に終戦を迎えます。戦後、東京商科大学（現・橋大学）に入学し、読書に明け暮れるなか、同人誌「時間」や「零度」の同人となり詩作に励みました。卒業後は岡崎の愛知学芸大学（現・愛知教育大学）に講師として勤務する傍ら、仲間との読書会「くれとす」や文芸同人誌「近代批評」に参加するなど文学の道へ進みます。



昭和32年「輸出」で文学界新人賞受賞、2年後「総会屋錦城」で第40回直木賞を受賞、昭和49年に刊行された『落日燃ゆ』では、吉川英治文学賞と毎日出版文化賞を受賞し、経済小説という新しい分野を拓きました。生涯入組織と人間Vをテーマとし、戦争文学、歴史小説、伝記、エッセイなど幅広いジャンルの作品を残しました。今回の展示では没後10年にあたり、晩年に多く著された、エッセイに焦点を当て、そこに描かれた素顔の城山三郎の個人像を言葉と寄贈資料をもとにご紹介します。

トークイベント
「晩年の城山三郎さん」



テレビ番組の制作やゴルフなど、晩年の城山三郎と共に過ごした仕事やプライベートの時間の中から、心に残るエピソードについてお話いただきます。



- 講演：植村 鞆音
『気骨の人 城山三郎』著者
- 日時：平成29年3月5日(日)
13:30~15:00
- 会場：文化のみち二葉館 1階 大広間
※入場無料(要入館料) 当日先着順自由席

【植村 鞆音】
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映、テレビ東京に勤務。1994年同局常務取締役。1999年テレビ東京制作代表取締役社長。DACグループ顧問。農業生産法人 NIKI Hillsファーム相談役。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。



主催：お問い合わせ

文化のみち二葉館

【名古屋市旧川上貞奴邸】

〒461-0014 名古屋市東区榎木町3丁目23番地

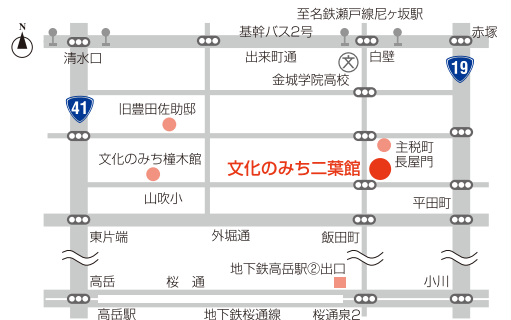
Tel & Fax 052-936-3836

<http://www.futabakan.jp/>

このチラシは古紙パルプを含んだ再生紙を使用しています。

交通のご案内

- なごや観光ルートバスメール「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分
※ 駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



当日利用したドニエコきっぷ等の一日乗車券を提示するだけで、名古屋市内の施設・飲食店などで割引などの特典が受けられます！

市バス・地下鉄でのお得なかが便利でお得です。

ドニエコきっぷ・一日乗車券を利用してご来場の方は、**文化のみち二葉館入館料割引！一般 200円 ▶ 160円**

※「ドニエコきっぷ」「一日乗車券」は、ゆとりとライン(高架区間)、名鉄バス、あおなみ線、リニモでは利用できません。

